



平成 28 年 9 月 30 日(金)
練馬区立開進第四小学校
校長 佐々木 秀之

開四小だより

10月号

諦めないで、願いをこめて

校長 佐々木 秀之

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉のとおり、うだるような暑さがいつの間にか爽やかな風へと変わり、虫の声の便りが聞かれるようになってきました。今年の夏は、4年に一度のオリンピック・パラリンピックに沸いた夏でもありました。

オリンピックでは、水泳の萩野公介選手の金メダルに始まり、体操男子の団体金メダル・内村航平選手の個人総合金メダル、卓球男子団体の銀メダル・女子銅メダル、陸上男子 400m リレー銀メダル、テニス男子シングルス錦織圭選手銅メダル、柔道、レスリング、バドミントン、カヌー等々…それぞれが私たちの記憶に残るメダルでした。

パラリンピックでは金メダルは獲得できなかったものの、ボッチャ混合団体銀メダル、女子マラソン道下美里選手の銀メダル、車いすテニス男子ダブルス国枝慎吾・齋田悟司ペアの銅メダル等々、それぞれが私たちの心を熱くさせたメダルでした。

そして、今大会で日本選手の活躍する姿から学んだのは、「決してあきらめない心」でした。以下は、それぞれの選手が試合後に残した言葉です。

＊

内村航平 選手：「疲れ切りました。出し切りました。もう何も出ないところまで出し切って獲れたので、うれしいよりも幸せです。」

土性沙羅 選手：「(伊調) 馨さんと (登坂) 絵莉さんの最後まで諦めない試合を見ていて、絶対に最後まで諦めずにやろうと決めていた」

高橋礼華/松友美佐紀 選手「最後まで競った場面で追いつけたとき、絶対もう、こういう時は自分たちが強いと思ってプレーできたので本当に良かったです」

錦織圭 選手：「自分だけじゃなく日本のためっていうと大げさですけど、それぐらいの気持ちで今回やっていた」

白井健三 選手：「今年に入ってからこだわってやってきて、練習で努力した分が運に回ってきた」

＊

体格や身体能力で劣る日本の選手たちが、なぜ快挙を達成できたのか。技術の高さ以外に秘密があるはずですが。選手たちの戦いは、感動だけではなく、「諦めないで、願いを込めて努力すれば、どんな環境にあってもいつか『夢』は叶う」というメッセージを伝えてくれました。何かを成し遂げるために、大事なのは何といても諦めない熱意だと思います。もちろん、資質や才能はあるに越したことはありません。しかし、結局は熱意があるかないかが、成功するか、しないかを決めるのではないのでしょうか。そして熱意は人から人へ移り伝わります。熱意が伝染して、モラルが高まって、素晴らしいチームワークができてくるのです。諦めない、懸命な姿勢は、人の感動を呼びます。人に感動を与えるというのは、素晴らしいことです。

明日は、運動会です。一年生から六年生まで、それぞれの花が咲きます。あのオリンピック・パラリンピックのようにはいかないかもしれませんが、諦めない、熱意が開四小の子供たち全員に伝染し、素晴らしい「チーム力」を見せてくれるものと信じています。